

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500016		
法人名	有限会社 白ゆり		
事業所名	グループホーム白ゆり		
所在地	大分県佐伯市大字木立字大野東区4885番地		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和2年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosyoCd=4490500016-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和2年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様と職員の関わりが理念に基づき、明るく元気に寄り添うを基本に、個別援助(食生活・過ごし方・体調他)に努めてまいります。
 ・職員は、個々人の気持ちに寄り添い情報を共有しながら、介護に取り組んでいます。
 ・季節感や行事食にあふれる手料理を提供しています。気分不良で食べたくない時などは、好きなものや食べやすい物を提供しています。
 ・協力医と施設看護師と連携を密にとり、体調異常の早期発見に努めており、週末期の看取りも行えるように準備致します。
 ・地域行事の参加・施設周囲が、四季折々の草花・木々・鳥の鳴き声などに恵まれ穏やかに過ごせます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、畑と森林に囲まれ共用空間や居室は快適であり眺望にも優れ、また家族やボランティアも来所しやすい建物の特性を活かして、活動に取り組みがなされています。特に、地域と協力・連携関係ができており、その中で理念と認知症を理解されている職員によって、一人ひとりの個別支援を基に全員で意見交換・検討された支援計画に従って、家庭的な支援が行われています。コロナ禍ですが、面会も可能な限り家族と利用者との関わりが継続できるよう取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに R2.4月頃よりコロナで思うように面会ができない 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、事業所の理念に基づき、地域の皆様と行事を共に楽しんだり、時々の挨拶や会話の中で、寄り添いながら実践している。また、地域とのふれあいなども新聞に、掲載し公開している。	月一回の職員会議等で、理念について協議されています。言葉掛け・接する態度など、支援される中で理念に基づいた対応がなされ、職員の早期退職に関わる為、採用時に理念の説明・施設の方向性など理解できるように取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と一緒に草取りをし、お茶を飲んだり庭先の花を見せてもらい交流ができています。公民館祭り・ボランティアや児童・生徒の施設訪問の受け入れの実践を行っている。地域避難先としている。	近隣に住宅が少ない地域があり、さらにコロナ禍ではありますが、地域の方と、公民館で花見など年間4～5回ほどの往来や触れ合う機会が保たれています。又、小・中学生やボランティア等の受け入れも積極的に取り組みがなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の関わりの中で、認知症介護の知識や経験を活かし伝えている。また、地域のヘルパー研修受け入れやSGK(佐伯GH協議会)の参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、偶数月に行っている。参加者や職員の意向に添った議題を検討し、行事や現状の報告を行う。参加者より、施設への意見を伺い、サービス向上に活かしている。	会議は、毎回欠席者もなく行われています。情報交換だけでなく、地区の状況など委員の方より意見・提言が出され、共有が保たれています。外部評価等の意見も、運営推進会議で報告され意見を頂いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から、高齢者福祉課(地域包括支援センター・介護保険係・介護認定係・生活保護係)と報告・連絡・相談を行いながら、利用者様の生活支援に協力を頂いている。	介護保険係や地域包括支援センターとの法改正などの情報交換に取り組みられ、利用者の生活状態など施設の状況を報告・相談や生活保護への対応など継続的な交流がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1/M回の職員会議で拘束のないケアを目指し、意見交換を行っている。下着の見直しなどで拘束廃止となる。1名は、危険性がある為、壁付け3点柵にしている。ご家族に説明し承認を得ている。	月一回の身体拘束ゼロを目的とした委員会で、ケアの方法等について共有されています。離床センサーは設置していますが、ホームから出たいようなしぐさを見た時は、一緒に付近を散歩するなど気分を落ち着かせる対応をなされています。	フィジカルロック、ドラッグロック、スピーチロック等、利用者の行動制限拘束等の研修に取り組みロック廃止を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	色々な角度から虐待行為が発生しないように、取り組んでいます。言葉などがつつい強くなったりしがちなので、気が付いた時は随時、注意を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加・職員会議や運営推進会議の議題で勉強を継続し必要時に適切な活用が出来るように、知識を深めていく努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の不安や疑問に、納得できるように十分に説明し、同意を得て契約を交わしている。重要事項の変更時は、家族に変更内容を説明し承認を得、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族が、遠慮なく意見や要望を伝えられるような、雰囲気や環境づくりをしている。直接、言えない時は、意見箱を設置しているので気軽に書けるようにしている。意見等は早めの解決に努めている。	苦情等が伝えやすいよう意見箱が設置されていますが、全く意見・要望は入らず、利用者や家族会などの時は、意見が言いやすいように、相談室等を活用され、市や地域包括支援センター等でも苦情が言えるなど、家族に説明がなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・個人面談・朝礼やケア時・後などでも、気軽に話せるような雰囲気作りをしている。その都度、色々な意見を言えるようにしている。	運営方法、新しい利用者の入所や職員の勤務状態など気軽に話せるよう、対応がなされています。また、日常的に気付く支援方法やアイデアも、状況に応じ取り入れるなど対応がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	急を要する時なども、勤務変更を速やかに行っており、希望休や有休などもとりやすい。管理者は現場が多いため、事務処理の時間がなく余裕がない。スタッフの給与・賞与のベースアップを図って欲しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回以上の研修を奨励し、研修の案内を掲示し勧めている。職員全員で研修の勉強会を行い、質の向上に努め、各人のレベルアップに努めている。力量の差もあるため、出来る限り一緒にケアを行い、指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護スタッフ・看護師共々、多様な講演会や研修会への参加を通じて、交流を深めながら情報を得、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族に面談を行い、生活歴や既往歴・趣味・食事・排泄等や入所するにあたっての気持ちを伺いながら、施設で不安なく過ごせるような情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での楽しい様子(会話・行動他)などを伝え、ご家族が安心していただけるように努めている。看護師が配置していることで、異常時の早急な対応ができています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居事前アセスメントを行い、心身状態や生活歴・家族状況を把握した上で、必要なケアを行うように努めている。転倒を防ぐため、移動乗乗時の動きは、しっかり観察を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勤務に就くときや終わった時などは、笑顔で挨拶を行う。野菜の皮むきや洗濯物たたみ等、少しでも出来る事を共に行っている。スタッフのエプロンのひもなどを結びなおしてくれるなどでも関係が築ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族による病院受診・外食・ドラッグの後に、どんな様子だったか伺う。家族・利用者・スタッフで話すことで、より絆が深まり安心感を得られる。病的な事やADL・心身の変化などもきちんと伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員の方ではありませんが、子供たちの家で食事をしたり、馴染みの美容室でのパーマやカットをするためにお店にお連れすることがある。	利用者の入所時に、フェイスシート等で本人と関わってきた人、親交のある人を把握し、その人との交流を妨げることなく、電話・手紙等を差し出す支援に取り組みされ、要望があれば住んでいた家の方までドライブ等で出かける態勢が、構築されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに出て来られる方は、好きなテレビやビデオ・音楽などを入れ、楽しんで頂き、部屋に居る時間が長い方は、ちょこちょこ様子を覗に行きおしゃべりをしたり、室温の調整を行う。天気の良い日は外気浴を行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	市外の施設に引っ越された方も、時々、面会に行ったり電話をかけたりと相談や支援に努めている。初盆参りや家族の方より、貴重なマスクを送って来て頂くなど、思わず嬉しい便りを頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向の把握に努め、全職員で情報共有を行っている。また、スタッフ間で検討を行い、その人にとって最良の暮らしは何かを常に意識し、家族の協力を得ながら支援を行っている。	カンファレンスで本人の意向・何を望んでいるのかを職員間で推測し、家族や関係者から情報を得ながら、本人の意思を確認し、笑顔が出る支援に取り組みされる体制が構築されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族・担当ケアマネに確認し、情報を得るように努めている。本人との常日頃からの触れ合いの中で傾聴に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、心身状態や生活リズムの把握に努めている。状況・状態の変化にはスタッフ間で情報の共有に努め、検討し柔軟な対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から本人・家族・職員からの意見を取り入れ、介護計画を作成しモニタリング後、見直しを実施している。カンファレンスで全職員の意見を反映させ、個別ケアを重視した計画を作成している。	本人・家族・担当職員等身近に接する人の意見・要望を聞き、状態に応じた本人本位の計画が作成され、入退院など状態の変化が生じた場合、カンファレンスを行い、介護計画の見直しに取り組みされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に添った援助を行い、変化や気づいた事を詳細に記録し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しを行っている。記録の書き方の指導等もを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が悪い時には受診・外に出ようとされる方には散歩・食事量が少量の時には、食べやすい物や好きなもので、臨機応変に対応を行っています。家族との急な外出にも、スムーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・区長の協力、地域の方々との地域資源の協働が図られている。ボランティアの受け入れや地域行事への参加など、地域とともに支え合いながら、生活している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医の受診が継続出来るように、職員同行で支援している。施設での様子を詳細に受診連絡票に記載している。受診結果は家族に報告し、医療との連携を密に行っている。	本人・家族の意向でかかりつけ医での受診ができるよう支援しています。また、協力医により、月2回の往診がなされ、他科への受診もスムーズに行えるよう、医療との連携が図られています。受診結果は、その日の内に家族へ報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、心身共に気付いた事を看護師に報告している。看護師より連絡ノート・直接指導により、薬や処置の仕方などを全スタッフで、検討・共有できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院に至るまでの経過をしっかり報告し、治療がスムーズに行えるように添書を作成し、口頭でも伝えている。また、入院期間中は定期的に面会に行ったり、電話などで状態状況を伺う等、密に連絡を取っており、家族にもその都度、報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に対する説明を行っている。状態状況・医療に関して、施設内で出来る事や出来ない事などをお伝えした上で、家族の理解を得え、チームで取り組むようにしている。	アンケートを取り、重度化や週末期に向け本人や家族の意向を確認し、意思確認書として残しています。看取り支援も行っており、看取りの対応を医師・看護との連携チームで取り組んでいます。また、看取りの家族により添い、心のケアに配慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所に掲示し、常に勉強会を行い適切な対応や連絡網の活用が、徹底して出来るように訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に年2回、利用者と共に避難訓練を実施。消防署の指導で消火器使用訓練を行い、非常品の備蓄をしている。区長・民生委員と協議し、地域避難先として指定されている。	年2回の避難訓練を行っています。その際は消火器の使い方を実施しています。夜間を想定した訓練は行っていませんが、安全に避難できる方法を話し合っています。非常食を備蓄し、点検しています。地区の避難先として協力体制を築いています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルや、日頃の処遇を踏まえた勉強会を行い、利用者個々に対する関わり方が、誇りやプライバシーを損ねず、人格を尊重しているかを十分に考慮している。	プライバシーの保護や個人情報漏洩の勉強会をしています。人格を尊重し個々に合わせた支援を行っています。言葉遣いなど慣れあいにならないよう、誇りを損なわない配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、一人ひとりの思いを尊重し、自己決定できる雰囲気・関係づくりを行っている。出来ないことであっても、否定をせず本人の気持ちは受け止めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、レクや居室の趣味活動などは、体調や気分に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に、ご家族又は施設から出かけることがある。お化粧をしたり、好きな洋服に着替えたり、髪の毛を梳いたりほめながら身だしなみにと気を付けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を聴いたり、緩やかな気持ちで食事を摂るようにしている。また、食べたい物を伺ったり、行事食には季節の食材や地域で摂れた果物なども、使うようにしている。7キや豆の皮むき等も一緒に行っている。	行事食として、季節の食材で手作りの花見弁当、敬老の日には、焼き肉をするなどみんなで食事を楽しんでいます。材料の皮むきやテーブルふきなどを行い、おやつ作りにも取り組む予定です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分や食事量・形態など、個々人に合わせ、出来る限り調整をし、食材が重ならないようなメニューを考えている。声掛けや食事介助が必要な方の対応を行い、バランスよく摂取出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔用スポンジやウェットで必要に応じての声掛けや介助を行っている。どうしても嫌がる方は、食後に水やお茶を飲んで頂いている。口臭を感じる方は、食後に限らず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、トイレで排泄出来るように支援しているが、足のふらつきがある方には、夜間はPTイレを使用し、自身で排泄が出来るようにしている。排泄パターンを掴み、オムツの枚数や種類の検討も行っている。	スタッフが、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声かけや誘導し、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。夜間もその人に合ったパットを使用し、睡眠の妨げにならないよう工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、健康チェックで排便の有無の確認を行っている。お腹のマッサージや歩行などの運動を行ったり、水分の声掛けや野菜をたくさん用いた料理に力を入れたり、乳製品は毎日、提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員により曜日を、決めてしまうことが多いが、一人ひとりの希望やタイミングは、考慮している。入浴中は1対1ということもあり、普段聞けない話などができるので、リラックスして入浴が出来るように配慮している。	その日のスタッフの人数により、曜日の変更はありますが、利用者の希望に添った支援をしています。脱衣所に壁掛けヒーターの設置を予定しています。また、リクライニング式の入浴用車いすの購入を検討し、安全・安心に入浴できるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるように、寝具類は干したりこまめに洗ったり、清潔に心掛けている。エアコンで温度調整を行い心地良い温度を保てるようにしている。電気も個々人で明るさを調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬についての内容・効能・留意点・服薬の仕方など、事細かく説明と指導を行っている。名前・日付(朝・昼・夕)と明確に記載しており、飲み忘れや誤認に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内の生活で、も出来る事はお願いして役割を持てるようにしている。楽しみでは散歩やカオケ・レクなど好きな事を楽しめている。嗜好品では、果物やお菓子等々個々人の好きなものを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2~3回、地域の方の協力のもと、利用者・家族・職員で外出したり、施設周辺を散歩している。全員ではないが、かかりつけの病院受診や、行きつけの美容院なども定期的に出かけている。	花見や、家族との外出は出来ませんでした。が、気分転換に事業所近くの花を摘んだり、近隣の方々と茶話会を楽しんだり、地域の方との交流を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、外出や受診時に自分の意思で買い物を楽しみ、自分で支払うように支援している。また、金銭管理ができなくても、本人の希望でごく少額の所持を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し、必要に応じて本人の希望があれば、電話をかけた取り次を行い、年賀状や手紙のやり取りなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や温度の適切な管理を行っている。ホールには、利用者で作成した貼り絵を掲示したり、季節感ある飾り物や花を生けて、環境を整えている。窓からも四季折々の自然の変化が感じられる。食事を作る匂いなどでこやかな雰囲気を感じられる。	ホールには季節の花や、壁面には利用者で作成した作品が飾られています。笑顔の多い写真を展示しています。料理の音や香りなど感じられ、落ち着いてくつろげる環境の空間となっています。また、ソファや、テラスでゆっくり過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから少し離れた所に、ソファやテラスがあり、外の景色を眺めながら、気の合う仲間とゆったりと楽しく過ごせる場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が慣れ親しんだ家具や写真・好むものを置いています。快適に過ごせるように空調の調整や環境整備をまめに行っています	本人の馴染みの物や、家具が移動の妨げにならない様、安全に配置されています。洗面所に水を張ったり、ぬれタオルを掛けるなど保湿の工夫をし、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は何時でも車イスやシルバーカーで移動しやすいように、整理整頓を行っている。居室では本人に合った福祉用具を使用し、安全に過ごせるようにしている。部屋の入口は名前を貼り、判りやすくなっている。		